メッセージ　2

雅歌の第二段階――召されて、十字架とのーを通して自己から解放される

聖書：雅 2:8-3:5．マタイ 3:13-17．21:32．16:24

Ⅰ．わたしたちが見なければならないのは、雅歌が、ソロモンによって予表される、復活し、昇天し、御座に着き、来臨する、わたしたちの王としてのキリストを理解し認識することの中へと、わたしたちを導くということです：

A．追い求め愛する者の追い求めることの第一段階は、王が彼女にとってどれほど大切であったかを啓示しています。しかし、彼女の追い求めることの第二段階においては、王が中心であり、それは王が彼女を評価し、彼女を見つめ、彼女を願う時です――雅 2:14。

B．わたしたちがキリストを追い求める第一段階では、キリストがわたしのためでしたが、今や、わたしがキリストのためになっています。詩篇第 45 篇が啓示しているのは、わたしたちが、わたしたちの王である主イエスに対して愛情に満ちた愛を持つなら、わたしたちの舌は速やかに物書く人の筆となって、彼であるすべてにしたがって、彼に対するわたしたちの経験と享受をもって、彼に対するわたしたちの愛と賛美を速やかに書くようになるということです――詩 45:1．マタイ 12:34 後半．Ⅱコリント 3:3，6．イザヤ 6:5-7。

Ⅱ．雅歌第 2 章 8 節から第 3 章 5 節で、キリストを愛する者は、彼によって召されて、十字架とのーを通して自己から解放されます。この区分を解釈するために、三つの極めて重要な言葉がわたしたちを助けます。それは、「十字架」、「自己」、「内省」です。

Ⅲ．「わが愛する方の声！　ご覧なさい、あの方がやって来ます．山々を飛び越え、丘の上を跳びはねて。わが愛する方は、かもしかや若い雄鹿のようです。ご覧なさい、あの方はわたしたちの壁の後ろにじっと立ち、窓からのぞき、格子からうかがっています」――雅 2:8-9：

A．主を追い求める者は、自分の満足のためにキリストを追い求めることにおいて、ある程度の成功を収めた後、内省に陥ります。この内省は隔離する壁となって、彼女をキリストの臨在から引き離します――9 節。

B．内省は、自己を見つめ分析することによって、自己を調べることです。自己は内省で構成されています――参照、Ⅰコリント 4:3-4。

C．わたしたちはイエスをひたすら見つめなければなりません。わたしたちの自己は、見る価値がありません――ヘブル 12:1-2 前半．ヨハネ 3:14-15．12:31-32．民 21:4-9。

D．彼がかもしかや若い雄鹿のように山々を飛び越え、丘の上を跳びはねることは、キリストの復活の力がすべての困難と障害に打ち勝つことを表徴しています。復活の力として、彼は山々を飛び越え、丘の上を跳びはねるキリストです――雅 2:8-9。

E．主を追い求める者は、自分の内省によって失望しますが、主は彼女を春の時期へと召しておられます――10-11 節．参照、ヘブル 3:7-8．ヨハネ 8:58。

F．彼女が自分自身を見つめるとき、それは休眠の冬の時期です。彼女は復活したキリストをひたすら見つめるとき、春の段階、すなわち復活の段階の中へと入ります――雅 2:10-13。

G．勝利の秘訣は、キリストから離れて自分自身を決して見ないことと、自己を決して考慮しないことです。自己はキリストの外にあります――ヘブル 12:1-2 前半。

Ⅳ．「岩の裂け目、崖の隠れ場にいるわがはとよ．わたしに顔の表情を見せなさい．あなたの声を聞かせなさい．あなたの声は甘く、あなたの顔の表情は愛らしい」――雅 2:14：

A．わたしたちが自己から解放されるのは、わたしたちと十字架との一を通して、キリストの復活の力によって、彼の交わりを通してです――14 節：

1．キリストが願っているのは、彼を追い求める者、彼のはとが、絶えず十字架につけられた状態にとどまること、すなわち、岩の裂け目、崖の隠れ場である彼の中にとどまることです――14 節．ガラテヤ 2:20．Ⅰコリント 15:31．Ⅱコリント 4:10-11。

2．しかしながら、十字架にとどまることは難しい事柄であり、起伏のある道を進んで高い山にある岩の裂け目や崖の隠れ場へと入っていくようなものです。

3．わたしたちが十字架につけられるのは、わたしたちの天然の命や力によってではなく、復活の力によって、すなわち、「夜明けの雌鹿」である、山々を飛び越え、丘の上を跳びはねるキリストの臨在によってです――詩篇第 22 篇タイトル．箴 4:18。

4．キリストは、彼を愛する者が起き上がって、自己の内省における低い状態から出て来るようにと力づけ、励ますために、彼の復活の力を見せることによって彼女を力づけ（雅 2:8-9）、彼の復活の繁茂する豊富によって彼女を励まします（10-13 節）。

5．わたしたち、キリストを愛する者は自分の天然の命によってではなく、キリストの復活の力によって、自己を否んで十字架を負うことを決意します。わたしたちはまたキリストの復活の力によって、彼の十字架と一になり、彼の死に同形化されることができます――マタイ 16:24．ピリピ 3:10．ローマ 8:13。

6．復活の実際は、霊なるキリストです（ヨハネ 11:25）。彼は究極的に完成された霊として、わたしたちの再生された霊に内住し、ミングリングされています（ローマ 8:16．Ⅰコリント 6:17）。

B．そのようなミングリングされた霊の中で、わたしたちはキリストの復活にあずかり経験します。この復活は、わたしたちが十字架と一となって自己から解放されることができるようにし、神の新創造の中で新しい人へと造り変えられることができるようにします。それは、キリストの有機的なからだの建造において、神のエコノミーを成就するためです。

Ⅴ．わたしたちは、キリストのからだのために、日ごとに死に、日ごとに自分の十字架を負い、彼の復活の力また豊富としてのその霊によって、キリストの死に同形化されなければなりません――Ⅰコリント 15:31, 36．ルカ 9:23．ピリピ 3:10．参照、ホセア 6:1-3：

A．わたしたちは、時代のビジョンと務めの中へと入ることによって義の道を取り、自分たちは死と葬りにしか役に立たないことを認識しなければなりません。それは、わたしたちが開かれた天、下って来る神の霊、御父の語りかけを享受するためです――マタイ 3:13-17．21:32．参照、エゼキエル 3:1-3。

B．わたしたちは召会生活のために、複合の霊としてのキリストの中で、その甘い効力を伴うキリストの尊い死と、その駆逐する力を伴うキリストの尊い復活を享受しなければなりません――出 30:23-25．ローマ 14:17-18．参照、ピリピ 1:19-21．2:13．

3:10．4:11-13。

C．わたしたちは十字架を負わなければなりません。それは、神のみこころを負うことを意味します。十字架は神のみこころであり、神のみこころはわたしたちの食物です――マタイ 26:39．ヘブル 10:5-10．ヨハネ 4:34：

1．一つの召会は神のみこころであり、召会のすべての兄弟姉妹は神のみこころです。こういうわけで、十字架を担うことは、召会を担うこと、またすべての聖徒を担うことです。それは、わたしたちが真の一を持つためです――エペソ 4:1-3．Ⅰコリント 1:10．ピリピ 2:2。

2．神聖な栄光の中での一が実現するのは、自己が完全に否まれ、わたしたちが自己を中心とするのではなく、からだを中心とするときです――ヨハネ 17:21-23．Ⅰコリント 12:24-25。

3．十字架は、わたしたちの外側の環境における神のみこころであり、わたしたちの内なる存在におけるイエスの殺しです。両者は共に働いて、わたしたちの天然の人を殺し、復活の神をもってわたしたちを造り直します――Ⅱコリント 4:10-12．12:7-10．13:3-4。

4．からだのために十字架を負うことは、キリストの平安にわたしたちの心を裁定させ、赦す主をわたしたちの命とし、主の信者たちを受け入れ、分裂を引き起こして死をまき散らす者たちから離れ去ることです――コロサイ 3:12-15．箴 25:15，20，26．ローマ 15:7．16:17．民 6:6-7．レビ 5:2。

D．わたしたちは、召会生活におけるすべての問題の解決となる命を与える霊としての、十字架につけられ復活したキリストを享受しなければなりません――Ⅰコリント 1:9．2:2．15:45 後半，58。

E．わたしたちは十字架につけられ復活したキリストを命の木として食べ、彼をわたしたちの日ごとの「抗生物質」としなければなりません――啓 2:7．Ⅰペテロ 2:24．3:18．ヨハネ 6:57。

F．わたしたちは、十字架につけられ制限されたイエスを小麦の地として享受し、復活した無限のキリストを大麦の地として享受しなければなりません――申 8:8．ヨハネ 12:24．6:9。

G．わたしたちは、十字架につけられたキリストをわたしたちの霊の岩として享受し、彼から飲み、復活における命の水として彼を流し出すことによって、聖なる所に関する罪科から救われなければなりません――Ⅰコリント 10:4．ヨハネ 19:34．出 17:6．民 20:8．18:1．エレミヤ 2:13．ヨハネ 7:37-39．エゼキエル 47:1．啓 22:1。

H．わたしたちは、十字架につけられ復活したキリストを、わたしたちの住まい、わたしたちの隠れ場、いと高き方の隠れ場としなければなりません――雅 2:14．詩 90:1．91:1．31:20．83:3．イザヤ 32:2．出 33:22．参照、マタイ 6:6．ヨハネ 14:23。

Ⅰ．わたしたちは、錯綜した複雑な状況のただ中で、神に信頼する純粋で単一な生活をする必要があります――雅 2:2．列王上 7:17-20．マタイ 6:28。

J．わたしたちは、絶えず霊を活用して自己を否まなければなりません。自己は、サタンの具体化であり、また神からの独立を宣言する魂でもあります――ローマ 1:9．マタイ 16:22-24。

K．わたしたちは主イエスの模範に従わなければなりません。彼は十字架につけられた生

活をし、神聖な命を表現し、神聖な属性を彼の人性の美徳として生かし出しました。わたしたちの原型として彼に内在的に従うことは、キリストの恵みによって、わたしたちの体にイエスの焼き印を帯びることです――ヨハネ 5:30．Ⅰペテロ 2:21．ガラテヤ 6:17-18。

Ｌ．わたしたちは、神の栄光のために神の霊によって仕え、自分自身を頼みとしてはなりません――ピリピ 3:3．Ⅰテサロニケ 3:13．Ⅱコリント 4:5．Ⅰコリント 10:31．参照、箴 25:28．28:25-26．29:23。

Ｍ．わたしたちは、十字架につけられたキリストのビジョンを見て、キリストの十字架をわたしたちの苦い状況と苦い存在に適用し、復活したキリストをわたしたちのいやす方、またいやす力として享受しなければなりません――出 15:22-27．Ⅰペテロ 2:24．啓 2:7．マタイ 9:12。

Ｎ．わたしたちは、殺し復活させる命の霊の法則の「スイッチを入れ」、自分自身を絶えず主との接触と触れ合いの中に保ち、神聖なエコノミーのための神聖な分与の中にとどまらなければなりません――ローマ 8:2，10，6，11，13。

Ⅵ．わたしたちが十字架とのーを通して自己から解放されることの結果は、わたしたちが復活の命の繁茂を経験し、キリストを経験し享受し、神聖な命において成長し、造り変えを通して美しくされ、キリストのからだの感覚を持つようになり、からだの中で、からだを通して、からだのために生きることです――ピリピ 3:10．コロサイ 2:19．ローマ 12:4-5，15．Ⅰコリント 12:12-27。

©2026 Living Stream Ministry